

都道府県別賞一等

保険はスーパーヒーローだ

三重県 名張市立桔梗が丘中学校 三学年

大野 陽菜

私は、生命保険の作文を書くために、まず我が家の生命保険加入事情について母に聞いてみました。すると「うちはパパもママもあなたたちもしっかり保険に入っているよ」と答えが返ってきました。保険に加入することに対する考え方は人それぞれであり、父の実家はしつかり保険に入るという考え方ですが、母の実家は保険に入るのはもったいないという考え方だったそうです。なので、父と母が結婚した当初は父しか保険に入っていませんでした。ではなぜ母は自分自身も私たちまでしつかり保険に加入する気になったのかが気になり、さらに質問を続けました。

すると、私ははつきりと覚えていませんがこんなことがあったそうです。私が小学三年生のとき、父が急性硬膜下血腫という大きな病気をしました。何の前触れもなく突然だったそうです。急な手術、急な入院、母は突然のことに気が動転したそうです。幸いにも後遺症はなく、十日間ほどの入院で、退院してから父は今日に至るまで元気に過ごしております。そのとき父は手厚い保険に加入していたため、手術費含め入院費もすべて給付金でまかなえました。当時対応してくれた保険会社の対応の速さや、気遣い心遣いに感激したそうです。その経験から、保険の存在は、金銭面だけではなく、心のケアもしてもらえることを知り、病気になった本人も治療に専念することができるし、それを支える家族の負担も減らすことができると、母も私たちも保険加入を決意したそうです。

私が父の病気、入院の記憶をはつきりと覚えていないということは、父が「もしもの備え」をしてくれていたおかげで、経済的にも全く負担がからなかったこともあり、家が大騒ぎすることなく、父の退院後はすぐ日常生活に戻ったからだと思います。

保険に加入しているから、安心して病気になっていいというわけではありませんが、少なくとも、大きい病気であればあるほどお金がかかってくるので、お金の心配がいらぬというものは、それだけ治療に専念でき、助かる命が増えるということだと思います。

たとえば、先進医療を調べてみると、治療費に数千万かかる場合があると書いてありました。誰にでもすぐに用意できる金額ではないと思うので、「もしもの備え」は「もしもの助け」になります。

## 第59回中学生作文コンクール

急に発症した父の病気の経験から、保険は困ったときに私たちを助けてくれるスーパーヒーローだと思いました。